



特集 生物多様性を考える

# 美しき水と緑を未来へ

山と海に囲まれ、さまざまな種類の自然に恵まれた西条市。  
今回は、鳥や水辺の生き物からその「いま」を考えてみます。



毎朝見られた鳥の記録をためる十亀さん

瑞の加茂川干潟や龍神社周辺の鳥を見つければ、種類を見分けていました。十亀さんは「これはチドリの中のダイゼンじゃね」などと瞬時に見分け、先生のような存在です。十亀さんは、国体に9回も出場するスキー選手でした。昭和50年代、山へのスキー場建設問題から環境に興味を持ち、鳥の虜に。地元のほか世界各国を旅し、今も毎朝探鳥しながらのウォーキングを欠かしません。「自然豊かに見える西条ですが、海や川を人工物で固めるなど自然への配慮のない開発で、鳥の住処やエサの生き物が減り、見られる鳥の種類が減りつつあります」と警鐘を鳴らします。鳥を通じて西条の美しさと見逃せない変化に気づかせてくれる十亀さんに感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございます！

## 広報さいじょうで26年間連載「西条バードウォッチング」完結 鳥たちが教えてくれた西条の美しさ



これまでに紹介した鳥一覧▶  
すべての鳥は市HPで見られます

### 連載一覧

西条の野鳥 (連載1998年8月~2004年10月)

No.1 チュウソウギ	No.2 キアシシギ	No.3 モズ	No.4 ジョウビタキ	No.5 チョウゲンボウ
No.6 アオグサ	No.7 ヒレンジヤウ・キレンジヤウ	No.8 アオジ	No.9 ムナグロ	No.10 アオハズク
No.11 サンコウチヨウ	No.12 コマドリ	No.13 ハシ	No.14 オオソリハシシギ	No.15 エビタキ
No.16 ヤマドリ	No.17 オナガカモメ	No.18 スズク	No.19 ミサゴ	No.20 ミヤマホオジロ
No.21 アマガシ	No.22 メボソムシクイ	No.23 オオルリ	No.24 オオヨシキリ	No.25 ホシガラス
No.26 ホウロクシギ	No.27 ハクセキレイ	No.28 コイナ	No.29 アトリ	No.30 ハシビロガモ
No.31 ハイロコウビ	No.32 イカル	No.33 キシバト	No.34 キビク	No.35 コルリ
No.36 ゴジュウカラ	No.37 ウミネコ	No.38 オバシギ	No.39 ノビタキ	No.40 ヘラサギ
No.41 ヒドリガモ	No.42 タグリ	No.43 マヒウ	No.44 ツグミ	No.45 チュウシャクシギ
No.46 クロツグミ	No.47 センダウムシクイ	No.48 ヨシゴイ	No.49 ヒワゴ	No.50 コナドリ
No.51 ハマシギ	No.52 アオサギ	No.53 カシムリカイツブリ	No.54 ツグミガモ	No.55 コヒメズク
No.56 ヤマガラ	No.57 セイタカシギ	No.58 キジ	No.59 ササゴイ	No.60 ツツドリ

**十亀さんから皆さんへ**  
長年にわたり「西条バードウォッチング」をご覧いただきありがとうございます。1998年に市の広報担当の方から「西条市内で見られる鳥を紹介したい」と相談があり、いつまで続けられるかと心配しながら始めた「西条の野鳥」。2004年からは「西条バードウォッチング」とし、計26年間で294種、西条で見られた鳥全種を紹介できました。私が撮影できなかった鳥の写真を提供いただいた友人の皆さん、多くの激励のお便りをくださった市民の皆さんに心から感謝、御礼を申し上げます。ありがとうございます。



「広報さいじょう」の最終ページ前ページに連載の人気コーナー「西条バードウォッチング」。飯岡在住の十亀茂樹さんを中心に、西条市内で見られた鳥が26年間紹介されました。そして今月、294種目を最後にコーナーが終わります。日本に600種類以上いるといわれる野鳥ですが、その約半分が見られるというのは実はすごいこと。西条の加茂川河口の干潟は実は日本有数で、さらに海から1982mの石鎚山のある、実に多様な環境を持つまちです。十亀さんが所属する「東予野鳥の会」の探鳥会を訪れました。この日は東予各地から約30人が集まり、

自然に触れてみませんか？

西条や世界の環境を考えるきっかけとなるような催しを行います。

※イベント詳細は各月の広報紙に掲載  
10月のイベントは15ページに記載

常緑樹観察会

日時：11月25日(土) 10時～12時

場所：徳田公民館

冬鳥観察会

日時：12月2日(土) 10時～12時

場所：高須海岸

神拝公民館勉強会

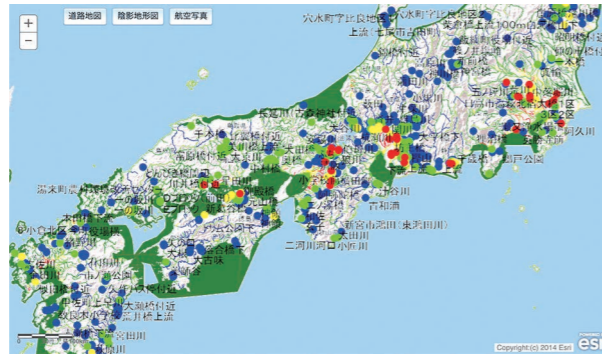
日時：12月2日(土)

13時30分～15時

場所：神拝公民館

地下水ラボ

西条の水のことを知り、  
一緒に考える会



▲全国水生生物調査の結果。青丸が最高ランク「水質階級Ⅰ」で、緑、黄色、赤と続きます



①みんなで見つけた生き物を間近で観察 ②ヤゴやシロタニガワカゲロウなどが見つかる ③講師はNPO法人西条自然学校の野口大介さん ④水面や川底、生き物のすみかはさまざま

愛媛では加茂川と中山川にしか生息していない魚「カジカ」も紹介されました。一生の間で川と海を行き来するのですが、川の水位が年々下がって、近年は海から上がって来れないこともあるそうです。生物多様性のある川や海のためには、間伐などで森林を整備して、森林をよい土壌にすることが大切だとも伝えられました。環境を考えるきっかけとなりました。皆さんも、身近な自然の前で、立ち止まってみませんか。

「うわ、いっぱいおるよー」。水深数cmの浅瀬には、想像以上に多くの生き物。「水と親しむ青空教室」に集まった子どもたちは、石をひっくり返したり、待ち伏せをしたりしながらさまざまな生き物を捕まえます。少し移動した地点では、泳ぐオイカワがたくさん見られました。

この教室は、西条市が毎年参加している環境省の「全国水生生物調査」を兼ねていて、川で採集した生き物の種類から水質（水のごよれの程度）を判定します。教室の最後で、先生の野口さんが一つずつ生き物の種類をみんなに伝えます。この日みんなが見つけたヒラタカゲロウ、ヘ

加茂川での自然教室  
水にすむ生物が教えてくれること

海山川の自然ある  
西条の魅力と課題



7月25日 水と親しむ青空教室

大きい見つけた！  
じいちゃん来て！

こんな浅いところやけど  
いっぱい種類がおるんやね